

三木南地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 平成30年9月28日
午後7時30分～9時30分
- 2 場 所 三木南交流センター2階研修室
- 3 参加者 三木南地区 8人
市 19人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、道路河川課長、都市政策課長、交通政策課長）
オブザーバー 6人

4 内 容

- (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり
- (2) 意見交換

【三木南地区】

市が志染駅南西側の再開発を都市計画マスタープランに位置付けるということであれば、志染駅周辺を一体的に検討いただき、志染駅南西側の変則的な交差点の解消や道路の拡幅のほか、志染駅南側にバスが発着できるようなロータリーを設置できないかなど、検討していただきたい。再開発事業は、10年、20年先を見越して行うものということは理解しているが、長期的な視点に立ち、大きな計画を地域とともに継続的な意見交換を行っていきたい。

【都市整備部長】

新たに策定する都市計画マスタープランでは、「志染駅周辺の利便性の向上を図るため、志染駅北側と南側の一体活用について検討を進めるとともに、活性化が図られていない駅南側においては、計画的な土地利用の増進を図るため、都市計画道路広野吉田線の整備と併せた駅前広場の整備・土地区画整理事業・市街地再開発事業などもあわせて検討を進める」こととする予定である。要望いただいているエリアに限らず、周辺を一体的に位置付けて、地域と一緒に検討していきたい。

【三木南地区】

さまざまな事業において、総合的に検討して判断するケースが多く、地域はずっと待たされている。しかしながら、高齢者が免許を返納するなどして足がない人が多くなり、待ったなしの状況である。10年、20年先では間に合わない。できることから進めていただきたい。高齢化が進んでいる中で、いかに足を確保するか。自由が丘、緑が丘の住宅街の中は三宮行きのバスが走っているが、三木南地区の中を走っている県道神戸三木線にはバスがあまり走っておらず、利便性が悪い。神姫バスの採算がとれるのかどうかにもよるのだと思うが、市が助成することも可能だと思うので、現状を見て検討いただきたい。

【都市整備部長】

バス交通については、現在公共交通網計画の見直しを行っているところであり、地区の思いをお聴きして、反映できるものは反映する。

【三木南地区】

市からの回答は「検討する」「考える」が多く、「できない」「やらない」という印象である。予算や地権者との調整など、どういう条件を整えばできるのか示していただきたい。

【都市整備部長】

再開発や区画整理であれば、地権者の同意が必要である。当該地域には家も多く建っており、立ち退きも必要となる。そうであれば、まだ試算はできていないが事業費も多くなる。なお、要望をいただいてから市が何も動いてなかったわけではなく、水面下で地権者との調整に動いていた。

【市長】

市としては、やらないということではない。やる方向で検討している。

【三木南地区】

住民の足の確保について、市は地域ふれあいバスを推進している。三木南地区は、農村地域があつて面積も広く、道路が狭く入り組んだところや田んぼが点在するところなどがある。地域ふれあいバスではバス停の数が限られ、狭い道も入りにくいことから、地区としては10名ぐらいが乗れる小

型のデマンドバスがいいと考えている。デマンドバスの成功事例における面積当たり人口比率と、三木南地区も同じような人口比率である。デマンドの方法についても、起終点だけを固定する方法やすべてデマンドにするなど、いろいろな方法がある。地区の特性を考慮して、デマンドバスについて地域と協議していただきたい。

【交通政策課長】

三木南地区では路線バスの本数は少ないものの、一定数は走っており、また、1便当たりの利用者数も2以上ある状態で、乗合いの基準を満たしている。このような状態でデマンドバスを導入すれば、路線バスが撤退することとなる。路線バスを活かすかたちで、まずは地域ふれあいバスについて、既に取り組みされている他地区の事例を視察するなどしていただき、市も一緒に考えていきたい。

【都市整備部長】

公共交通網計画の見直しの中で、デマンドバスについても検討している。デマンドバスの事例として、丹波市への視察も行っている。丹波市は導入までに数年かかっており、市としてもまだまだ検討を重ねる必要がある。地域ふれあいバスについても、他地区で運転手の高齢化の課題があるなど、時間をかけて考えるべきである。まず地域で地域ふれあいバスをやってみるといいうのも1つであると考えている。

【三木南地区】

路線バスの活用が十分でないと感じている。買い物や病院への手段として活用できるので、もっと地域で活用すべきである。公共交通網計画とはどのようなものか。

【交通政策課長】

公共交通網計画は5年間の計画であり、交通政策の大きな方向性を示すものである。また、各地区での交通政策の取組を示したいと考えている。現在同計画を策定中であり、お示しできる段階になれば、各地区にお示しする。

【三木南地区】

三木南地区では路線バスが走っているが、バス停までの足がない。全国の事例も視察していただきたい。

【三木南地区】

台風20号が接近した際に児童の登校時に大雨となり、警報は発令されていなかったため、児童はそのまま登校していた。しかしながら、校長の判断で1～2時間自宅待機とした学校もあったと聞いている。校長による学校ごとの判断ではなく、市で一斉に自宅待機にするなどの対応はできないか。児童が学校にいるときに警報が発令された場合の対応についても校長の判断とするのか。夕方までに警報が解除される見込みであれば夕方に下校させるが、そうでなければ警報が発令された段階で保護者に迎えに来てもらうことになっていると思う。学校は避難所にも指定されており、安全ではないのか。

【教育振興部長】

警報発令時の学校の休校などの判断は、各校長が行う。バス通学がある学校や通学範囲が広い学校、狭い学校など、各学校にそれぞれ特性があるため、各校長の判断としている。ただし、大きな災害が発生することも考えられるため、今後検討を加えて、各校長と調整しながら教育委員会で判断することも考えたい。何時までに警報が発令されたときはどうするか、学校で警報が発令されたらどうするかということは、あらかじめ決めており、保護者にはお知らせをしているところである。また、警報が発令された場合については、学校は安全であるということは校長も十分認識しているが、子どもをどの時点で帰すということも考えなければならない。緊急時については保護者に迎えに来ていただき、確実に引き渡すこととしており、その訓練についても各学校で行っている。警報時の対応については、命にかかわることでもあり、今後も校園長と連携してしっかりやっていく。

【三木南地区】

以前にみっきいバスの実験として、小林ルートと広野ルートを走らせてみたことがあったと記憶しているが、利用者が少なかった。そのふり返しにおいて、少なかった要因の分析を行い、行き先が少ないことや毎日走っていないことなどの意見が出た。現在、高齢者が増えていることから、どうしたら利用者が増えるのかという分析を行い、対策を取っていた

だきたい。

【都市整備部長】

現在、三木南地区では北播磨医療センター行きのバスが走っており、1便当たり2名程度は乗っている状況である。この状況から、高齢化によりバスを交通手段として頼りにされている方が増えていると感じている。

【三木南地区】

地区の皆さんが心配しているのは、高齢化率が高くなっていることである。また、人口も減少している。三木市は阪神間に近いのに、阪神間から遠い市よりも人口が減少している。そこで、阪神地域の避難地域として三木市を再開発することで人を呼び込めないか。鉄道が神戸電鉄だけでは発展性がなく未来に望みがない。神戸市営地下鉄の延伸の話も立ち消えになっているが、神戸市と協議できないか。三木南地区は神戸、明石からの入口にあたる場所であり、志染駅周辺の再開発も活性化の策になると考える。三木市発展のために道筋を付けてもらえないか。

【市長】

三木市発展の道筋は、今年から来年にかけて策定する総合計画で示していく。三木市の人口減少は、緑が丘、自由が丘に入ってきた人たちが一気に高齢化した結果である。三木市はすごくいいところであり、金物、酒米山田錦、ゴルフ場や防災公園などのスポーツ施設もあり、東京オリンピックの陸上競技フランス代表の合宿地にも選ばれ、地域資源に恵まれている。この地域資源をうまく連携させてまちづくりを進めていけば、神戸に近いこともあり、人口減少を抑えられると考えている。神戸市との連携についても、例えば防災公園へのアクセス道路に課題があると感じており、神戸市長とも話をさせていただいている。

【総合政策部長】

人口減少は日本全国で起きていることである。また、三木市は神戸市のベッドタウンとして急激に人口が増加したが、その後一気に高齢化し、急激な人口減少につながっている。三木市には三木ならではの良さがあり、住みやすいところという評価もいただいている。これをPRして三木市に住んで

もらうようにしていきたい。子どもが大学で市外に出て戻ってこないことが多いため、子どもが戻ってくるような施策を総合計画に盛り込めるよう、地域と意見交換の場を設けてご意見をお聴きしたい。

【三木南地区】

広野自動車教習所の前の県道の舗装が傷んでおり、子どもが自転車で事故に合ったりしている。どのように対策をお願いすればいいのかわからない。子どもや高齢者が転ばないように対策をしていただきたい。

【都市整備部長】

県に地域からの意見としてお伝えする。対応が必要な場合は、市に申し出ていただければ県に伝えていく。

【三木南地区】

三木市をPRして人口を増やすことは重要である。全国には、学校がいいので人が引っ越してくる市もある。最近、子どもの一般常識が欠けていると思うことがある。例えば、歩行者優先だからと信号のない横断歩道で、車に待ってもらってゆっくり歩いて渡っているのを見たことがある。歩行者優先といっても、少しは急いで渡ったほうが待つ側も気持ちがいい。教育だけでなく一般常識も教え、常識もしっかりと教える三木市としてPRしていただきたい。子どもたちに一般常識を教えることは社会に出てもプラスになる。

【教育長】

子どもたちが将来、社会で生きていく力を付けていきたいと思っている。学校教育も大事だが、家庭教育がベースにあり、地域力と合わせた3つが重要である。教育委員会では学校再編について検討している。人口推計によると現在市内で約6,000人の子どもがいるが、30年後には半分に減ってしまう。我々が小さいときには子どもの数が多く、異年齢の遊びの中で上下関係や礼儀作法などを身に付けられる環境にあった。今は子どもの数が少なくなりすぎて、小規模校の良さを生かすのも限界があると感じている。そこで、適正な学校規模を維持するため、学校の統廃合や小中一貫校について提案しているところであり、三木南地区でも説明したい。

【三木南地区】

地区には市外から引っ越してきた人がおり、なぜ三木市に引っ越してきたのか理由を聞くと、災害が少ないということであった。三木市に住んでいてあまり意識したことはなかったが、大きな魅力であると考えます。市によっていろんな魅力があるが、災害の少ないまちとしてPRしてもよいのではないかと。

【総合政策部長】

防災は三木市をPRできる場所だと思うので、総合計画においても柱の一つとして考えていきたい。

【三木南地区】

自治会で空き家の調査をするという話があった。空き家は増えてきており、災害や火事の時などは大変であると感じているが、都市計画としてどう考えているのか。

【市民生活部長】

生活環境課では、そのまま放置すれば倒壊のおそれがあるような危険な空き家（特定空き家）については、代執行で壊してしまうことなどを盛り込んだ空き家対策計画を、今年度空き家に関する法定協議会を10月に立上げ、意見を聴きながら策定する。

【副市長】

都市計画に空き家をどうしていくかということに記載することは難しい。市においては特定空き家の対策が最も進んでいるが、空き家をどう活用するのかということについては、今後検討していきたい。

【三木南地区】

主要な駅の近くなど人の目につきやすいところにも空き家がある。空き家を放ったらかしにして、市外から来た人にどう思われるのか危惧している。何とかできないか。

【副市長】

特定空き家は除去する基準があり、市としてもしっかりと対策をしていく。しかしながら、特定空き家に該当しない空き家がたくさんある。景観上の問題で対応するのは難しい。活用できるものは活用していかないとはいけませんが、古いものがすべて悪いわけではない。

【三木南地区】

隣の家がごみだらけで臭いもひどい。市で対応してもらえないか。

【市民生活部長】

生活環境課から連絡しますので、相談させていただきたい。

【三木南地区】

空き家を活用して移住に繋げている他市の事例がある。三木市でも空き家を活用した移住の促進策ができないか。

【副市長】

空き家を活用して移住促進するというのも空き家活用策のメインとなってくる。ただし、空き家を使っただけに当たって、耐震性などの性能がどうなのかなどについて検討する必要がある。

【三木南地区】

作業場がボロボロの空き家があり、台風で屋根などが飛んで道がふさがれてしまったところがある。近所の方が市に相談したが、所有者の承諾がないと対応できないと言われた。

【都市整備部長】

道路上は市で対応できるが、今回の件については道路上の物を除去すれば空き家が崩れてしまう可能性があり、手が出せない状況であった。そのため、市で除去していいのかどうか所有者に確認をとっていた。なお、現在は通れる状態になっている。

【副市長】

阪神淡路大震災のときでも、道路に倒れてきそうな家を道路管理者として除去できるのではないかと検討したが、倒れかけていても個人の所有地にある家については、所有者の同意が必要であるということであった。

【三木南地区】

地区に狩猟の免許を取りたい方がおられる。イノシシなど害獣の駆除のために鉄砲の免許を取られるとのことである。その方のことについて、警察から話を聞きたいとの連絡があった。免許を取らせてあげたいとは思いますが、どこまで協力をするべきか悩んでいる。また、免許を簡単には取らせてはいけないと思うが、高齢者も増えており、若い人への免許取得

の促進にも取り組んでいただきたい。

【産業振興部長】

三木南地区では、小林地区や広野地区が農地のある地域である。イノシシなどによる被害もあり、狩猟免許取得を促進しているところである。

【副市長】

警察から連絡があったのは、おそらく銃刀法の関係での警察の身上調査かと思われる。銃を悪用するような人かどうかを確認したいのだと思われる。それに対してどう答えたかによって区長に責任はない。

【三木南地区】

三木南地区は介護度が高い人の比率が高いと聞いている。

【健康福祉部長】

三木市は全国で見ると介護認定率は低いが、地区ごとに見たときに介護度の高い人の比率が高い地区もある。これを地区にフィードバックすることにより、みつきい☆いきいき体操などに一層取り組んでいただければと考える。

【三木南地区】

引越しをしてきた方が自治会に加入されないケースが増えている。強制的に自治会に加入していただくことはできないか。

【市民生活部長】

同じようなことが他の地区でも問題になっている。転入時に市民課窓口において自治会への加入についてのチラシを渡している。自治会は任意団体であって、加入を強制できるものではないため、自治会で勧誘していただきたい。

【副市長】

自治会に加入されない方の増加や、自治会役員のなり手が少ない、高齢化が進んでいることは三木市だけの課題でなく日本全国の課題である。自治会は任意団体であるため加入の強制はできないが、それではすまされない状態であると認識している。自治会は住民自治の基本となる組織であり、大変重要な組織である。年代別の役員構成など自治会活性化の事例もあるので、視察をしたり研究をしていく必要があると考える。

【三木南地区】

自治会の役員のなり手をさがすのに苦勞している。市職員に役員をお願いしたら、断られたこともある。

【副市長】

市職員が自治会の役員になった場合、地区から要望や意見を出す側と市で受ける側が同じになるケースが多々あり、難しい面があると思う。しかしながら、役員のなり手が少なくなってきたおり、市職員でも引き受けるケースが増えてきている。

【三木南地区】

金物まつりを市役所周辺で開催するのは今年で最後と聞いている。

【産業振興部長】

来年度は三木山総合公園で開催することに決定した。

【三木南地区】

花火大会の会場はどうなるのか。

【市民生活部長】

花火大会の会場は実行委員会で協議して決定していただく。10月には決定する予定である。

【副市長】

花火大会については、現在開催している三木防災公園ではシャトルバスの経費など費用もかかることから、開催場所の第一候補を三木山総合公園、第二候補を美囊川河川敷、第三候補を三木防災公園として検討しており、警察とも協議しているところである。警察との協議において、現在の三木防災公園では3万人の人出があるが、三木山総合公園に3万人が入場することが可能なのかという課題がある。警備や交通規制の問題があるため、警察との協議が整わないと開催は難しい。警察からいただいた課題を解決する方策を検討する必要がある。

【市長】

金物まつりについては、市が会場変更を提案したものではなく、実行委員会において三木山総合公園で開催する提案があり、会場変更が決定したことを補足する。また、空き家について景観上の問題で市で対応できないかという話があっ

たが、市で対応してしまうと空き家を放っておいても市が対応してくれるということにも繋がりがねない。いろいろな悩ましい課題がある中で、地域での助け合いが重要であり、地域の皆さんで取組を行っていくことが大事であると感じた。